

令和6年度「ごみゼロやまがた県民運動」(家庭編) 展開方針参考資料

【過去3年分】

リデュース (ごみを出さない)
リユース (繰り返し使用)

① 食品ロス削減運動 R3 R4 R5

- ・食べ物を大切にしたい本来の気持ちに立ち返る。
- ・買い物前に冷蔵庫をチェックし、必要な量だけ購入する。
- ・買い物の際は「てまえどり」(商品棚の手前から取る)。
- ・残っている食材から優先して使い、食材を使い切る。
- ・「賞味期限」と「消費期限」を正しく理解する。
- ・残った料理を作り替える等の「環境にやさしいレシピ」を活用する。
- ・家庭で余った食品は、フードバンク活動団体を有効活用する。
- ・「もったいない山形協力店」を積極的に利用し、その取組を応援する。

直接廃棄 : 15.0%:R3 (14.4%:R2)
過剰除去 : 4.6%:R3 (4.4%:R2)
食べ残し : 13.7%:R3 (13.6%:R2)
合計 : 33.3%:R3 (32.4%:R2)

※ 出典 : 環境省調査 令和4年度食品廃棄物等の発生抑制及び再生利用の促進の取組に係る実態調査

○食品ロス削減に係る意識調査 ※ やまがた環境展2023来場者アンケート

食品ロス削減に現在取り組んでいる又は新たに組みたい : 100人 (回答者361人の28%)

② プラスチックごみ削減運動 R3 R4 R5

- ・お買い物はマイバックを持参する。
- ・不要な使い捨てスプーンやフォーク、包装は断る。
- ・使い捨てプラスチックの使用を削減する。
- ・詰替えできる商品を使用する。
- ・水筒やマイボトルを活用する。

- ◆ 2050年には、海洋中のプラスチック量が魚の量以上に増加の予測 (2016 世界経済フォーラム年次総会報告書)
- ◆ 日本の人口1人当たりのプラスチック容器包装の廃棄量は米国に次いで世界第2位 (2018 国連環境計画報告書)
- ◆ G20 大阪サミット (2019年6月) 大阪ブルー・オーシャン・ビジョン : 2050年までに、海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロに
- ◆ 日本では、3R+Renewable(再生可能資源の活用)を基本原則に、令和元年5月に「プラスチック資源循環戦略」を策定。令和4年4月に「プラスチックに係る資源循環の促進に関する法律」が施行。

リサイクル (再生利用)

③ ごみの分別徹底運動 R3 R4 R5

- ・市町村の紙ごみ回収に積極的に協力する。
- ・小型家電もしっかり分別する。
- ・テイクアウト容器は軽く洗って分別する。
- ・資源回収を積極的に利用する。
- ・スーパーの店頭回収を利用する。
- ・衣類もリユース・リサイクルでファッションロス削減。

- 【令和3年度実績】
- ・雑がみ回収実施市町村数 : 33/35
 - ・資源ごみ 収集量 : 24,828 トン (ごみ排出量に対する割合 : 6.6%)
 - ・集団回収 回収量 : 14,055 トン (ごみ排出量に対する割合 : 3.7%)
 - ・店頭回収 回収量 : 7,065 トン (ごみ排出量に対する割合 : 1.9%)

